

協働事業評価シート

部課名	川越市男女共同参画課	平成30年度
記入団体名	川越市女性団体連絡協議会	

予算事業名	男女共同参画推進	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	----------	--

協働事業名称	イーブンライフin川越	
協働事業の概要	○イーブンライフin川越の開催 1. 開催日 平成30年12月1日(土) 2. 会場 川越市市民活動・生涯学習施設 活動室1・2 (ウエスタ川越2階) 3. 内容 講演 講師 北野 大氏(秋草学園短期大学学長) 演題 「北野家の訓え ～男女共同参画の視点から～」 4. 来場者 134名(女性104名、男性30名)	
協働事業の決算額	200,000円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成30年7月13日から12月20日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	①
協働の形態	①補助・助成 ②共催 ③協働委託 ④後援 ⑤情報交換・情報提供 ⑥実行委員会・協議会 ⑦事業協力 ⑧企画・計画立案への参画	③

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた(5点) ・よくできた(4点) ・できた(3点)
 ・あまりできなかった(2点) ・全くできなかった(1点)

No.	評価の視点	実施段階	評点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前・中前・中	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前・中前・中	4	5	4.5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中前・中前・中	3	5	4
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	4	4	4
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	3	5	4
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	3	5	4

合計点数	30.5 点
------	--------



講演の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

今回の講師は、秋草学園短期大学学長・北野大氏で、知名度が高いため、集客しやすかった。北野家の母の訓えや男女共同参画等について、ユーモアを交えながら楽しくお話していただき、アンケート結果からもたいへん好評を得られたと思う。
 協働事業として実施するにあたっては、協働の必要性について認識を共有し、互いの特性を生かした役割分担を行うことが難しかった。

【市民活動団体等】

今回は講師の北野大さんは北野たけしさんのお父さんとしても知名度のある方で、当日の参加は事前申し込みとしましたが受付開始から1時間半で締め切りとなり、110人の方にお断りすることになったのに当日30人も欠席があったのは残念でした。川越市女性団体連絡協議会は男女共同参画を実現するために活動することを目的に設立され、当初から主な事業の一つとして該当事業を市と共催で平成22年からは協働事業として開催してきましたがこれからもこの事業を続けていけたらと思っています。そして川越市が男女共同参画社会に少しずつでも前進して行くお手伝いができればと思っています

【川越市協働事業審査委員会における評価】

A	2名	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	C
B	4名	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	4名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	
総合評価			

【事業に関するコメント】

今年度も講演形式での実施でしたが、著名な教授を講師に選び、多くの参加者が集まったことは素晴らしいことです。また、講演の前に受託団体の活動の様子を映像で流すなど、イベントを通じて男女共同参画の意義を知ってもらえるような工夫があったことも、良い点であると思います。

一方で、協働事業の評価において、役割分担等の項目等での双方の評価に差があり、協働に対する意識の違いがあるように見受けられます。協働事業はお互いの考え方を理解し合いながら、互いの特性を最大限発揮できるように事業を進めることが重要ですので、企画の段階から十分な打ち合わせを重ねていただき、幅広い世代にアプローチできる事業内容を望みます。

協働事業評価シート

部課名	こども未来部 こども政策課	平成30年度
記入団体名	NPO法人川越子育てネットワーク	

予算事業名	子ども・子育て支援新制度	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	--------------	--

協働事業名称	子育て情報誌作成	
協働事業の概要	子育て中の方やこれから子育てする方が安心して子育てができるよう、行政の制度、各種相談窓口、出産・子育てに関する情報などを紹介するための情報誌を作成する。	
協働事業の決算額	127,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成30年6月26日～平成31年3月31日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	①
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	③

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	5	5	5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	4	4	4
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	34 点
------	------



平成31年度
「こえどちゃん」

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

当事業は今回で17版目となる子育て情報誌の作成を行うもので、子育て当事者と行政双方の視点から子育て情報を掲載し、市内の未就学児のいる世帯へ冊子を配布することで、子育てを支援するものである。

掲載内容については、市民活動団体の意見等を取り入れることで、ニーズに合った情報を掲載し、前例踏襲ではない事業の実施ができています。今年度は市担当者も市民活動団体主催の子育て情報誌制作会に参加し、実際に子育てしている方の話を直接聞くことができた。制作会に参加し、ボランティアの方が多様な能力を各々持っていることを知り、子育て中の方の社会参加の必要性を強く感じた。今後の発行においても、ボランティアの方々の参加を求め、子育て中の実体験を集約し、より役立つ情報誌としていきたい。

また、平成27年度版からは、編集印刷等を担当する民間事業者と協定を締結し、3者で事業を実施している。これに伴い、子育て支援施設や幼稚園、保育所等を通じ、合計2万部を子育て世帯に配布することが可能となっている。今後、配布施設が増えることが予想されるので、配布数を増やすことも視野に入れていきたい。

【市民活動団体等】

昨年度同様、企業+行政+NPO法人の3者での制作で、我々NPO団体としては、妊娠中・子育て中の母親、父親にお伝えしたいリアルな体験記事の制作と、温かみのある風合いにこだわった情報誌が作成できたのではないかと思います。

全ページフルカラーで見やすく、且つ発行部数20,000部は未就学児のいる全世帯に配布できる数で、多くの人へ情報が届けられるのは大変嬉しいことである。冊子制作だけでなく、より多く活用していただける配布の仕方や、言語の多様化など、担当課と相談しながら進めることができた。担当課には各課との調整や情報誌作成業者とのやり取りを窓口として仲介していただき、年を重ねることに信頼感が増し、スムーズな連携が取れている。今年度は制作会等に毎回顔を出していただき、参加者さんの思いをストレートに感じて頂けたものと思う。

働く母親の実態とワークライフバランスのポイント、父親による育児の実情、年齢別の体験談など、幅広い内容で時代に合ったテーマを中心に構成し、体験談やエールを教科書的ではなく楽しく伝わるよう掲載することができた。父親の育児参加についても参加の母親から声をかけていただいて、先輩パパとしてのリアルな声とニーズを掲載することができた。今後もさらにニーズを把握しながら、もっと読み易く、子育ての役に立つ情報誌となるよう努力していきたい。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		総合評価
A	8名	A
B	2名	
C	0名	
D	0名	

【事業に関するコメント】

これまでの「こえどちゃん」も十分な内容が盛り込まれておりましたが、今年度版も引き続き、子育ての際に発生するトラブルに対して、すぐに答えが見つかるような情報誌になっております。子育て中のパパ・ママはもちろんのこと、祖父母などの多世代にわたってとても利用しやすい冊子となっていると思います。また、協働という観点でも、行政・団体・業者の強みを十分に発揮している事業であると言えます。

今度も、最新の情報や子育てのテーマを取り入れて、紙面に反映していただくとともに、新たな課題に対して前向きな姿勢で取り組み続けていただくことを望みます。

協働事業評価シート

部課名	環境部 環境政策課	平成30年度
記入団体名	福原ファームクラブ	

予算事業名	環境基本計画推進	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	----------	--

協働事業名称	かわごえエコツアー事業	
協働事業の概要	市内の環境の現状と保全活動の大切さを学び自主的に環境活動に参加する人を増やすため趣旨に賛同した市民活動団体に協働委託して実施するものである。 実施日：平成30年10月31日（水） 行程：ウエスタ川越→パイオニア（株）川越事務所→東洋大学川越キャンパス→小堤八幡神社→つばさ館→小畔の里クリーンセンター→ウエスタ川越 参加者：28名（1名欠席）	
協働事業の決算額	93,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成30年 7月18日 ~ 平成30年12月21日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	②
協働の形態	① 補助・助成 ② 共催 ③ 協働委託 ④ 後援 ⑤ 情報交換・情報提供 ⑥ 実行委員会・協議会 ⑦ 事業協力 ⑧ 企画・計画立案への参画	①

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前・中前・中	5	5	5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	前・中前・中前・中	5	5	5
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中前・中前・中	5	5	5
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	5	5	5
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	5	5	5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	5	5	5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	5	5	5

合計点数	35 点
------	------



ツアーの様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

協働事業は、それぞれの団体（民間・行政）が持っている利点や得意分野を活かした事業ができる制度であると考えております。

今回のエコツアーに関しましては、団体側が有している企画・運営力やネットワーク、行政が有している広報力や市民からの認知度を一体化することによって、より高い次元での事業が実施できたものと考えております。

企画内容は、バランスよくバラエティに富んだ内容となっており、参加者からの感想をみても、質の高いよい事業が実施できたものと考えております。

【市民活動団体等】

エコツアーで一番心配なのは天候です。今回は天気にも恵まれ、湧水地でのクレソン採取、東洋大学の紅葉、イチヨウ並木、調節池、最終処分場など堪能できました。特にパイオニアとつばさ館奥の太陽光発電施設や、パイオニアのゴミ分別、最終処分場の延命理由などを説明して貰うことで、参加者の環境意識、ゴミ問題の知識が深められたと思います。

小型バスの移動ながら、28名の昼食場所やトイレを確保するのは難しいものがあります。どうしても公共施設に頼らざるを得ない部分で、小学校の協力が得られるのも協働事業の良い点でした。現場での説明もマニュアルに留まらず、丁寧に対応して貰えた事は有り難いことでした。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

		総合評価
A	8名	A
B	2名	
C	0名	
D	0名	

【事業に関するコメント】

川越の環境の現状と保全の大切さを学ぶための事業として、企画内容が素晴らしいです。訪れる環境スポットには、普段入れない施設もあれば、日常の一部となっている場所もあり、参加者の意欲を掻き立て、意識啓発を促す工夫がされております。また、ツアーの企画・実施に当たり、行政・団体が双方の役割を十分に理解したうえで、各々が持つリソースを最大限活用しており、理想的な協働事業であると思います。

今後も魅力的なツアーの開催を通じて、多くの市民の環境に対する意識が向上するような事業展開を望みます。

協働事業評価シート

部課名	市民部 地域づくり推進課	平成30年度
記入団体名	NPO法人 アートバーブズフォーラム	

予算事業名	協働の推進	新規 <input type="checkbox"/> 継続 <input checked="" type="checkbox"/>
-------	-------	--

協働事業名称	こえど市民活動ネットワークプロジェクト	
協働事業の概要	①市民活動支援講座の開催 ウエスタ川越で、市民活動に役立つ講座及び市民活動で地域デビューしたい人材を発掘する講座を年4回開催。 ②市民活動情報紙の発行 市内団体の活動内容やイベントの紹介、ワークショップや市民活動に関する講座の情報を掲載する情報紙を年2回発行する。 ③ワークショップ・情報コーナーの活用促進 同コーナーで、市民活動支援講座に集まった団体や個人の交流を図るとともに、団体の活動についてヒアリングし、情報紙で発信する。	
協働事業の決算額	540,000 円	※委託額及び補助金額を記載
事業の実施期間	平成30年7月1日 ~ 平成31年3月31日	

協働の提案者	①川越市からの提案 ②市民活動団体等からの提案	①
協働の形態	①補助・助成 ②共催 ③協働委託 ④後援 ⑤情報交換・情報提供 ⑥実行委員会・協議会 ⑦事業協力 ⑧企画・計画立案への参画	③

【協働事業評価について】

○評価基準… ・大変よくできた（5点） ・よくできた（4点） ・できた（3点）
 ・あまりできなかった（2点） ・全くできなかった（1点）

No.	評価の視点	実施段階	評 点		
			行政	団体	平均
1	協働事業を行うにあたって、互いの持つ情報等を共有することができましたか。	前・中前	3	4	3.5
2	相手の立場や特性を互いに理解し、信頼関係を築けましたか。	中前・中	4	4	4
3	事業目的を共有することができましたか。	前・中	4	4	4
4	互いの自主性・自立性を尊重し、行政と市民活動団体等が対等な関係で事業を実施できましたか。	後	4	4	4
5	役割分担や責任を明確にすることができましたか。	後	3	4	3.5
6	事業目的に沿った事業内容を実施することができましたか。	後	3	4	3.5
7	全体として満足できる結果でしたか。	後	3	4	3.5

合計点数	26 点
------	------



市民活動支援講座
の様子

【担当者等からの今回の協働事業に対する感想等】

【行政】

市内のさまざまな団体の活動を支援するという面では、助成金活用講座などの専門性の高い講座を提供したり、情報紙の作成において掲載する団体のヒアリングをすることで、団体の思いが紙面に反映されており、協働による効果があると考えています。また、市民活動の活性化の面では、これから活動を始めたい市民の方の興味関心に沿った講座企画となり、昨年度より参加者も増加し、満足度の高いアンケート結果となりました。

一方で、団体のネットワークづくりを目的とした事業としては、団体同士の交流を図るワークショップや交流会が重要ですが、その企画運営には団体・行政双方に課題が残るものとなりました。今後は、団体同士がより交流できる事業内容を検討していきたいと考えております。

【市民活動団体等】

当初の協働目標であった、市民活動団体のネットワークづくりは未だは難しいが、市民の活動を支援する中間支援という役割は果たせるようになってきたと思う。

目標達成のチーム作りとしては、情報紙の取材、紙面作成やチラシ作成、講座の運営などそれぞれ技術を持った市民のネットワークができて、結果として昨年よりずっとスムーズに仕事ができるようになった。

協働の成果も出ていて、具体的には、市民団体側の専門性と人的ネットワークを活かした講座の企画運営と、行政側のネットワークを生かした、情報紙やチラシの配布、市の職員研修など、協働でなければできないことが実施でき、想像以上に活動に広がりが出てきた。

参加者の意識の変化については、講座をすすめてゆくうちに、各団体や個人を繋ぐ「ブリッジパーソン」としての役割を持つとういうふうに、段々とそれぞれの意識も変わってきた。

【川越市協働事業審査委員会における評価】

			総合評価
A	1名	当該協働事業を実施したことで、地域課題の解決につながるなど、適切な協働事業として評価できるものであった。	B
B	8名	ほぼ適切な協働事業として評価できるものであった。	
C	1名	当該事業を協働事業として実施するには課題があるため、事業を継続する場合は見直しが必要である。	
D	0名	協働事業としてうまく機能しなかった。	

【事業に関するコメント】

年間を通じ、市民活動支援講座や情報紙発行を行うことで、川越における市民活動の広がりが見られるようになりました。その一方で、協働事業としての観点では、行政・団体ともに目的意識を持って進めることが出来ているものの、事業のあり方における課題も見受けられます。

このような事業では、すぐに明確な成果が表れてきませんが、様々な手法をもって、興味・関心がある人をこの事業に引き込み、川越で活動をはじめたり、協働事業を担う団体が生まれてくるような展開を期待します。